



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校

令和4年1月26日

「めあて」に向かう「やる気」

校長 菅原 透



明けましておめでとうございます。今年の干支は壬寅（みずのえとら）。厳しい環境から新たな芽吹きと成長が期待できる年だそうで、コロナ禍から新たな希望の道が生まれることを期待したいものです。（自分は還暦の年を迎え、時の速さに驚愕です。）

3学期の始業式で、「めあて」の話をしました。新学期にあたって「めあてをもつ」ことはとても大事なことです。気持ちを新たに、高みをめざし、努力する子どもを育てたいと思います。そしてもうひとつ。「めあてになる」という意識。3学期は、次の学年へのゼロ学期であることをふまえ、下級生の目標、手本になるという気持ちをもたせたいものです。それは、めあてをもってがんばる自分から、周りを意識し、切磋琢磨する、より大きな自分へ変貌・成長することでもあります。48日間の短い3学期ですが、今年度の集大成として、一日一日を大切に過ごしていきます。

先日、スキーの指導をしました。当日は青空が広がる絶好のコンディション。子ども達にめあてを聞くと、上手になりたいという思いが各々からあり、これはがんばらねば！と気合を入れて指導を始めました。私のモットーは、子どもの上手なところをほめ、上達に必要なポイントをひとつだけ伝えること。どの子も一生懸命滑ってくれ

ました。一人ひとり、滑りは違うので、同じ視点で見るのではなく、“その子”を見つめ、うまさを見取り、ほめ、上達するポイントを伝えました。時間はあっという間に過ぎ、最後に感想を聞いたところ…。

「お父さんに教えてもらってもなかなかできなかつたのが、今日はできるようになって嬉しかったです。」私も嬉しくなりました。

（私の娘も父の教えではだめで、小学校のスキー教室で上達させていただきました。）極めつけの感想もいただきました。

「これまでスキーが嫌いで、いつも、早く時間にならないかと思っていましたが、今日は最後まで楽しく滑ることができました。」天にも上るような思いになりました。

苦手意識は意欲を削ぎます。楽しさを経験しないと前向きになれないのが常です。アドバイス等で「できる」を体感させる。人と比べず、前の自分より「のびる」を体感させる。今、できていることをほめ、励まし、できた時のびた時の喜びを分かち合う「かわり」を体感させる。それが、この子のいや！という思いを払拭させたのかもしれない。



【教員によるよみきかせ】

めあてに向かうためには「やる気」が必要です。本人の努力とともに、その気にさせる“四かけ人”が子どもに不可欠であることを、改めて心に刻みました。